

〔延喜式三十七〕諸國進年料雜藥〇中

美濃國六十二種〇中 熊膽四具〇中 熊掌二具〇中

信濃國十七種〇中 熊膽九具〇中

越中國

十六種〇中 能膽四具

〔日本山海名産圖會二〕捕熊 取膽

熊膽は加賀を上品とす、越後、越中、出羽に出る物、これに亞ぐ、其餘四國、因幡、肥後、信濃、美濃、紀州、其外所々よりも出す、松前蝦夷に出す物、下品多し、されども加賀必ず上品にもあらず、松前かならず下品にもあらず、其性、其時節、其屠者の手練、工拙にも有て、一概には論じがたし、加賀に上品とするもの三種、黒様くろてまめ、豆粉様まめ、琥珀様、是なり、中にも琥珀様尤も勝れり、是は夏膽、冬膽といひ、取る時節によりて名を異にす、夏の物は皮厚く膽汁少し、下品とす、八月以後を冬膽とす、是皮薄く膽汁満てり、上品とす、されども琥珀様は夏膽なれども冬の膽に勝る、黄赤色にて透明り、黒様はさにあらず、黒色光あるは是世に多し、

試眞僞法

和漢ともに僞物多きものと見へて、本草綱目にも試法を載けり、膽を米粒許水面に點するに、塵を避て運轉し、一道に水底へ線のごとくに引物を眞なりと云々、按ずるに是古質の法にして未つくさぬに似たり、凡て獸の膽何の物たりとも、水面に運轉こと熊膽に限べからず、或は獸肉を屠り、或は煮熬などせし家の煤を、是亦水面に運轉すること試みてしれり、されども素人業に試みるには此方の外なし、若□□得水に點じて、水底に線を引を試みるならば、運轉飛がごとく疾く、其線至て細くして、尤疾勢物をよしとす、運轉遅き物、又舒にめぐりて止まる物は、皆よろしからず、又運轉速きといへども、盡く消ざる物も佳からず、不佳物はおのづから勢ひ碎け、線進疾ならず、又粉のごとき物の落るも下品とすべし、又水底にて黄赤色なるは上品にて、褐色なるは